



平成23年度 JST 戦略的創造研究推進事業（社会技術研究開発）採択
社会技術研究開発事業「コミュニティで創る新しい高齢社会のデザイン」
高齢者の営農を支える「らくらく農法」の開発



らくらく農法

集落点検マニュアル

準備・実践編

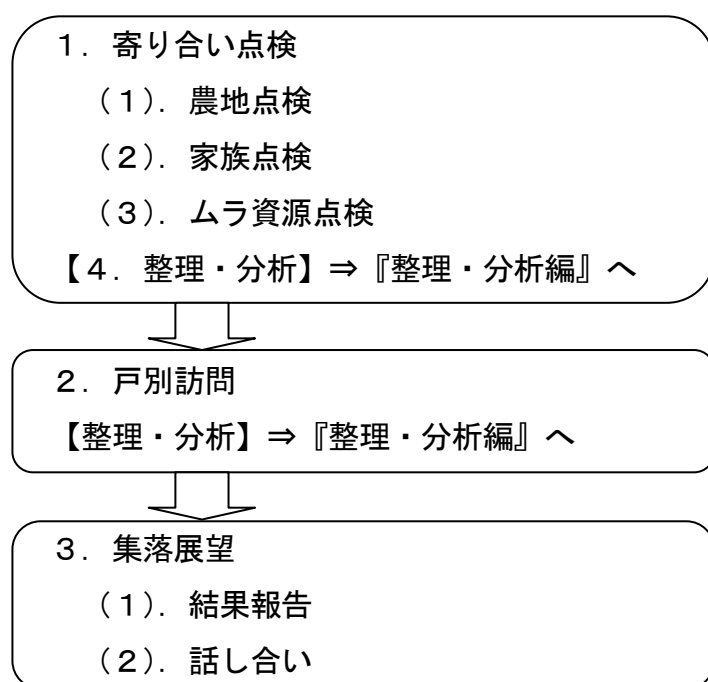
目次

準備・実践編.....	1
I. 準備編.....	2
1. 先方との打ち合わせ.....	2
2. 当日までの準備.....	3
3. 調査対象者の人権と利益の保護への十分な配慮.....	3
II. 集落点検の実践編.....	5
1. 寄り合い点検.....	5
2. 戸別訪問.....	12
3. 集落展望.....	13
【付録】	
農地情報シート.....	16
家族シート.....	17
ムラ点検シート.....	18
ムラ点検結果整理シート.....	19
戸別調査シート.....	20
別紙1（農機具番号）.....	31
別紙2（疲労部位）.....	32
別紙3（睡眠）.....	33

らくらく農法・集落点検マニュアル

準備・実践編

集落点検は、農山村地域の現状と課題、可能性を総合的に把握・診断するために、「T型集落点検」などの先行研究・調査の手法をベースに、われわれ独自の観点を組み込んで発展させた参加型調査手法である。下記の「寄り合い点検」「戸別訪問」「集落展望」という主に3つの作業プロセスによって構成される。



「寄り合い点検」とは、調査対象地域の農地・農業や家族、ムラ（地域）の現状と課題、展望について、全世帯（家族）を対象に行う調査である。具体的には、小字（垣内）ごとに、地域の集会場などに集まって（＝寄り合って）もらい、数人のグループに分かれて、農地（農業）と家族、ムラについて聞き取りを行っていく。そして、その結果を地図などに表すことによって、参加者間で現状や問題点を把握することをめざす。

「戸別訪問」は、上記「寄り合い点検」を補足するものである。家族を単位に、寄り合い点検の場では聞きにくいことを中心にして、「農地・農業」「家族」「集落（ムラ）」について網羅的に聞き取ることによって、現状を深く把握することを目的にしている。

「集落展望」は、上記の2つの調査から得られたデータを整理したうえで、地域（集落）の方々に改めて地域の現状や課題を理解していただき、今後どのような集落や農業の展望が描き出せるかを自ら考えていただくことを目的にしている。

I . 準備編

1. 先方との打ち合わせ

□集落点検の趣旨や方法を集落の代表者等に説明し、寄り合い点検の日時と場所を決定する。

□住民の方に点検の趣旨と日程を連絡していただく。その際、趣旨説明を先方に一任するのではなく、説明用のわかりやすいチラシ（A4で1枚程度）などを用意して、同時に回覧や配布してもらうとよい。

→小字（垣内）単位で集まってもらう。家族関係や地域行事については女性の方が詳しいことが多いので、男性に偏らないよう依頼する（ご夫婦で来てもらえるとベスト）。1つの班（調査者2人1組）に3家族が標準。

□集落の概要について、地区の代表者などに以下の点について聞き取りをする。

あわせて、住民活動をしているグループや、男性・女性（できれば世代ごとに）など、各層にグループインタビューを行い、住民の課題意識やニーズ、関心を探る（写真1）。

・ムラのモノ：集落（地区や垣内）で所有や利用・管理している財産

→施設、山林田畑、用水路・堰、神社・祠など。規模や維持管理の方法、課題など

・ムラの組織：集落（地区や垣内）の組織・行事とその活動実態

→自治会、講、氏子、葬式組、消防団、婦人会、母子会、老人会、子ども会、青年会、JA、JA女性部、生産組合、森林組合、土地改良（水利）組合、など

□自治会名簿などを入手し、Excelなどで家族の一覧表を作成する。家族番号（世帯ではなく、家族を単位にする。例：2世帯住宅の場合、1家族と考える）と集落番号を付ける（事務局で一括管理する）。
→各調査で使う共通の番号となる。



写真1 グループインタビューの様子

・家族番号：自治会名簿を踏襲（01～）

・集落番号：××集落1 ○×集落2 △×集落3 △△集落4 □□集落5

△□集落6 □×集落7 ○△集落8 □○集落9

先方（自治会など）との間で、集落点検に関わる個人情報の取り扱いについて、確認する（できれば文書を交わしておく）。

会場の確認（使える机・いすなどの備品類など）をし、準備物（p. 4）をそろえる。
→足の不自由な方（高齢者）への対応も忘れずに。

2. 当日までの準備

本マニュアルの内容と当日の進め方を打ち合わせで再確認する。

調査者の中で役割分担をする。

リーダー：_____ サブリーダー：_____ 記録・タイムキープ：_____

写真：_____ 庶務・受付：_____

調査担当のペア決めをする。

A班： _____ ・ _____ B班： _____ ・ _____ C班： _____ ・ _____

3. 調査対象者の人権と利益の保護への十分な配慮

- ①データの管理取扱いおよび公表のしかたについて、調査対象者に書面で説明し、その同意の上で回答をお願いする。
- ②各種シート、録音テープ等のデータは管理責任者の責任において厳重に管理し、原則として所定の担当者以外の閲覧・利用を許可しない。外部業者に委託する場合、その契約にあたって守秘義務を課す。
- ③担当者は、調査対象者および回答の内容について言及する際、個人が特定されないよう配慮する。とくに特定する必要がある場合は、公表の範囲と内容について事前に関係者の許諾を得る。
- ④データの一般公開については、個人情報を削除し、かつ調査対象者の人権と利益の保護を担保できることを前提として検討する。
- ⑤担当者は人権と利益の保護の措置について確認し、補助員に対しては調査倫理についての十分な訓練を行なう。

準備物チェックシート

- 農地マップ (A 1) : 班の数 + α ____ 枚
- 家族シート (A 2) : 家族数分 + α ____ 枚
- 家族点検シート (家族図) のサンプル
- ムラ資源シート (A 1) : 班の数 $\times 2 + \alpha =$ ____ 枚
- 集落点検マニュアル (予備用) : 5部程度

- 家族番号一覧表 (A 4両面) : 班の数
 - A 4用紙 (メモ等用) : 1班につき5枚程度
 - クリップボード (A 4サイズ) : 班の数 + α
 - 農地情報シート (A 4) : 世帯数分 + α
 - 家族点検シート (サンプル・A 3サイズ) : 班の数
- } クリップボードにはさむ

- 黒マジック : 1~2本
 - 黒鉛筆 (3B~6B) : 4~5本
 - 色鉛筆 : 4色 (黒、赤、青、オレンジ) $\times 2$ 本
 - 消せるボールペン (黒・赤) $\times 1$ 本
 - 消しゴム
- } ペンケース (各班) にセット

- 説明用のチラシ (参加者の人数分 + α)
- 参加者用の名札 (使い捨てのシールタイプ)
- 受付用の筆記具 (マジック、ボールペンなど)
- 出席者記入用の名簿 (受付用)
- 調査担当者の名札 (ネックタイプ)
- 鉛筆削り
- 記録用のデジカメ
- ICレコーダー (ムラ資源用) 1台
- ノートパソコンと通信カード
- 住宅地図

Ⅱ. 集落点検の実践編

1. 寄り合い点検

○開始前の段取り

- 会場の配置を決めてセッティングをする（リーダー＋庶務を中心に）。
 - 机の島（班の数＋休憩用（ムラ資源用）＋受付用）をつくり、椅子や座布団を配置する。足の不自由な方への対応（例：椅子を用意する）も忘れずに。
- 名札を着用する。
- ペアで担当する島を決める。
- 農地点検シート、ペンケース、クリップボード一式を各島に配置する。
 - 庶務を中心に全員で。
- 受付の準備と開設をする（庶務を中心に）。
 - 名札の用意、出席者名簿や文具、配布資料（「今日やること」）の用意。参加者に名札と名簿の記入をお願いし、適当に着席していただく。出席者の把握と人数確認をしてリーダーに伝える。その際、事前に回覧していただいた説明用のチラシを改めて配布する（集落点検の趣旨を理解していただく工夫）。
- 来ていないご家族の確認
 - 必要に応じて地元の方に連絡を取っていただく。
- パソコンの立ち上げ（必要があれば）
- 家族点検シート（見本）の貼り出し

○オープニング

- 開始時間と終了時間、参加人数・家族数の記録をする。
 - 記録係
- 挨拶を兼ね、チラシも参照しながら、改めて本日の作業の趣旨説明をする。
 - リーダー
- 班分けの依頼（→リーダー）
 - 欠席家族と無住世帯の確認をした上で、1つの班が3名程度になるように分かれて各島に座ってもらう（参加者に任せる）。欠席家族と無住世帯はいずれかの班に入るように依頼する。
- 調査ペアごとに、担当する家族の名前と番号（リスト）を確認する。



写真2 リーダーによる説明の様子

(1) 農地点検 (各班での作業。農地マップおよび農地情報シートの記入・作成)

□段取りの確認と参加者の氏名確認をする。

担当家族 : No : (さん)
 No : (さん)
 No : (さん)

□調査担当者の自己紹介をする。

「それでは今からみなさんのご自宅と畑がどこにあるか、順番に伺っていきたいと思います。これは、今の状況と、10年先の見込みをそれぞれのご家族にお伺いし、集落全体として、農地が今後どのような状況になっていくかを把握・診断するためのものです。お話しになりたくないことは話していただかなくて構いません」



写真3 農地点検の様子

①農地の場所確認

□まず農地情報シートに、家族番号、お名前、担当者名、農業の形態（自給的農家 or 販売農家）を確認して記入する。

□農地マップに、自宅の位置を黒鉛筆で書き込む。

□農地の位置とその範囲を、以下の要領で黒鉛筆で書き込む。

- ① 所有している農地：黒鉛筆で枠取りする
- ② ①のうち、他の人に貸し出している農地：クロス地
- ③ 借りている農地：斜線

□すべての農地に黒鉛筆で番号【家族番号（2桁）—農地番号（1桁）】を記入する。

例：01-1、15-3

□つぎに、農地マップを見ながら、農地ごとに以下の各項目の内容を聞き取り、黒鉛筆もしくはボールペンで農地情報シートに記入していく。

□農地が貸し出し中もしくは借地の場合、貸出先の名前（家族番号）、貸主の名前（家族番号）を確認する。

□作物名（例：柿、梅、みょうが、米など）

□柿畑については、①品種（富有（ふゆ）、刀根（とね）、平核無（ひらたね）など）、②樹齡、も確認する。

→品種によって労働のピーク時期が異なる（渋柿の方が早い）。

□面積を ha や a で記入する（わからなければ、概算でもよい。例：10～12a）

※1町（歩）＝1ha　　1反＝10a

□農地の立地状況について：

①軽トラで直入り可能か（可能な場合は、⊙と記入）

②園内路の有無（有る場合は、⊕と記入）

③収穫した柿など重い荷物を運ぶ時の作業のキツさ（一番楽な農地を「1」、一番キツイ農地を「5」として、1～5の5段階から選んでもらう）

「以上で、書き落としている畑はありませんか？」

□欠席および無住の家族が含まれている場合は、その農地についてもわかる範囲で確認し記入する。

②農地ごとの営農意思と現状の確認

「つぎに、みなさんの畑の現状と、10年後の見通しを順番に教えてください。〇〇さんからお願いできますか」

□農地マップを見ながら、家族ごとに、それぞれの農地について現時点での営農意思を確認し、色鉛筆で色分けをする。

→回答に迷われる場合、たとえば「生きているかわからへん」という場合は、後継者が決まっている場合は「青」とし、それ以外は理由や現状をよく聞いて「オレンジ」か「赤」を決める。

- ・ 黒色：現時点での耕作放棄地
- ・ 青色：10年後も継続していると思う農地
- ・ 赤色：10年後さすがにここはあきらめているかなあと思う農地
- ・ オレンジ色：できたら続けたいがどうなるかわからない農地

□それぞれの農地に関してそのように考えている理由を尋ね、農地情報シートに記入していく（アクセス、日当たり、傾斜など）。

→聞き役とメモ役を分担するとよい。

□すべてが終わった段階で一旦休憩を取る。休憩用のテーブルに移動してもらう。

□次の家族点検用のシートと、ムラ資源用のシートを各テーブルに用意する。

→家族点検は引き続き農地点検の島で、ムラ資源は休憩用のテーブルで行う。

□準備が整った段階で、以下のアナウンスを行う。(→リーダー)

「お疲れ様でした。それでは、ここから、みなさんのご家族の情報と、区や垣内のムラの情報をお聞きしていきます。基本は、みなさんにこのテーブルの周辺に居ていただいて、お茶でも飲みながら、昔と今のムラの行事やお祭り、共同でやっている(いた)作業などについて、みなでワイワイ言いながら思い出していただきます。ご家族の情報については、順番にお呼びしていきますので、呼ばれたら、先ほどのテーブルに行ってくださいようお願いします」

(2) 家族点検 (家族図の作成) ※「(3) ムラ資源点検」と同時並行で

- 家族図のサンプルを机に置く。
- 1家族で1枚の家族シートを使用する。
- 家族ごとに名前を呼んで、各机に来ていただく。
- 下記の項目を聞きながら、1軒ずつ家族図と関連情報を黒ペンで書いていく。

「では、今度はみなさんのご家族の状況についてお伺いしていきます。これも、集落全体として、今後、農業や集落を支える人がどれぐらいいそうかを、同居の方、外に出ている方がどれぐらいの頻度で帰って来られるのかなどをお聞きして診断するためのものです。お話しになりたくないことはお話しただかなくて結構です。まず、現在一緒にお住まいの方からお聞きします」

- ①本人の氏名、年齢、農作業への関わり、職業、〇〇生まれか否か
~~~~~ご本人以外は名前を聞かない~~~~~
- ②配偶者の年齢、農作業への関わり、職業
- ③同居家族（親、子ども、孫など）の年齢、性別、農作業への関わり、職業
- ④他出家族（きょうだい、子ども、孫など）の年齢、性別、居住地（市町村）、帰省頻度（例：月に1回、年に2回など）とその内容、職業

- ①～④については、農作業の担い手（メイン◎とサブ▲）と、農作業に出る度合い（例：週に3日）がわかるように聞いて記入する。
- （同居・他出を含め）ご家族の中で、通院・入院（含む在宅介護）の状況を無理のない範囲で聞いて記入する（→農作業等への支援可能性を見極めるため）。
- 同居家族の範囲を確認し黒ペンで囲む。  
→これらの事項を聞きながら、家族の現状や問題が浮かび上がってくるとよい。重要な内容や気づいたことは家族シートの余白にペンでメモをしておく。その場でシートに書きにくいことはA4のメモ用紙などに記入しておき、終了後、忘れずシートに書き加える。
- 漏れがないか確認し、元のテーブル（ムラ資源点検）に戻っていただく。
- 余裕があれば個人番号（01～）を漏れなく書き込む（順番は任意でよい）。



## ①行事点検

□ムラ資源シート（A1）を用意し、まず現在の事柄について、1月～12月まで曆に従って聞き取りをしながら、シートの表を黒鉛筆で埋めていく。

→農事曆を含めて集落（垣内）の曆が作成できるように。（後で写真等を付け加えて）集落の行事や現状を見てもらえるようにする。

\* おもな聞き取りの項目（例）

- ・ 宗教行事（祭り・祀りや盆踊り、慰霊）
- ・ 娯楽行事（レクレーション活動・スポーツ大会）
- ・ 共有財産（施設）の内容と維持管理に関する作業や行事
- ・ 環境活動（清掃、廃品回収、防犯・防火活動）など
- ・ 農事と作物

【共通の確認点】

- ・ 事柄の名称
- ・ 実施月と頻度
- ・ 実施場所
- ・ 担い手や参加者の範囲
- ・ 行事や作業の具体的な内容
- ・ はじまった時期や終わった時期
- ・ 現在の実施状況や課題 など

「つぎに、昔行っていた行事や祭りについて教えてください」

□過去に存在していた事柄についても、同様に聞き取りをして別のシートに記入する。

→後から「なくなった年表」が作れるように。

□垣内の共有財産（祠など）の場所を聞き、農地マップに黒ペンで記入する。

## ②食べ物点検

「最後に、みなさんが昔作っていた作物や料理、採って使っていた草花や木の実、薬草などを教えてください」

□ムラ資源シートの空欄に、かつて作っていた作物や料理（こんにゃく、豆腐、漬物など）、採取していた草花や木の実、薬草などを確認し、黒ペンで記入する。

□最後に、昔の行事の写真を持っているか確認してみる。

#### (4) おわりに

□作業が一段落した時点で、終わりの挨拶と簡単な講評をする。

→リーダーが中心に。班ごとに簡単に発表する。

□後日の戸別訪問や発表会について、告知やお願いをしておく。

□調査担当者間で本日の作業内容の点検と、今後について打ち合わせをする。

→可能な場合は、近くの役場の会議室や果樹センターなどを利用（予約が必要）。時間的に難しい場合は、解散後 10 分程度時間をもらい、その場で農地番号や個人番号、家族番号など、聞き取った事項に記入漏れやミスがないかを点検する。

※データの整理・分析は、『集落点検マニュアル 整理・分析編』を参照のこと。

## 2. 戸別訪問

→寄り合い点検からなるべく日を置かずに実施するのが望ましい。

※詳細は、巻末の「戸別訪問調査シート」を参照のこと。なお、データの整理・分析は、『集落点検マニュアル 整理・分析編』を参照のこと。



### 3. 集落展望

#### (1) 準備について

- 参加人数にもよるが、テーブルをいくつかに分け、住民の方に分かれて座っていただく方がよい(なるべく女性の方にも多く参加してもらえるように、開催日時の工夫や、地元の自治会等との事前の摺合せが重要)。
- 寄り合い点検(農地・農業、家族、ムラ)の結果を、グラフや図、暦などわかりやすい資料を作成して、ポイントを絞って説明する。その際、パワーポイントなどプレゼンテーション用のパソコンソフトを使うと便利(写真4)。



写真4 パワーポイントを用いた報告会の様子

- 報告会が一方通行、単調にならないように留意する。たとえば、10年後の予想(農地の色や担い手の年齢構成)を図やグラフで示すなどして、どうすればよいかを住民の方自身で考えていただく簡単な「ワークショップ」を途中に組み込むと、参加者(と)の一体感や課題意識が高められる。

#### (2) 報告会と話し合い【ワークショップの例】

- 各テーブルに、発言の喚起と議論の交通整理をするファシリテーター(司会)を配置する。記録用紙と筆記道具一式も配っておく。

##### \*ワークショップのテーマ例

「たとえば85歳まで農業を続けるとしたら、そのために必要なこと、やってみたいこと、はなんでしょうか? 各テーブルでいろいろお話しください」

「みなさんのお子さん、お孫さんはどこにお住まいですか? どれぐらいの頻度で(何をしに)帰ってこられますか?」

「みなさんご自身やご家族、〇〇地域と農業について、今気がかりなことと、10年後の

夢、さらに、息子・娘世代に聞いてみたいことを、お1人ずつ自由にお書きください」  
→このケースでは、「〇〇地域これからシート」と名づけたA4サイズの用紙を配布して、10分程度で参加者全員に現時点の思いを自由に書き込んでもらった。休憩時間中にいくつかをピックアップしてパワーポイントに入力し、再開後、会場のスクリーンに投影して結果を発表した（写真5）。



写真5 10年後の夢を紹介

□進行状況にもよるが、1つのテーマにつき5～10分ぐらい時間を取る。

□各テーブル（5～7人の予定）単位で、ざっくばらんに話をしてもらおう。その際、女性が多いと率直な意見が出て話が盛り上がることが多い（写真6）。



写真6 テーブルごとに話し合いをしている場面

□ファシリテーターは、可能な範囲で、どんな発言が出たかをメモしておく。

□時間経過後、全体の司会者から各テーブルでマイクを向け、面白かった意見を参加者全体で紹介してもらう（写真7）。



写真7 テーブルごとにまとまった意見を発表

□また、可能であれば、地元の女性グループなどと相談して、「ムラ資源点検」で発掘された地元の郷土料理などを準備し、休憩時間を利用して参加者に試食してもらいと、より「楽しい」雰囲気が生まれ、相互の交流が図れる（写真8）。



写真8 シンポジウムの合間の談笑風景。ムラ資源点検をきっかけに考案された郷土料理が並ぶ。



△=男性  
○=女性

さん )

家族点検シート (

No.

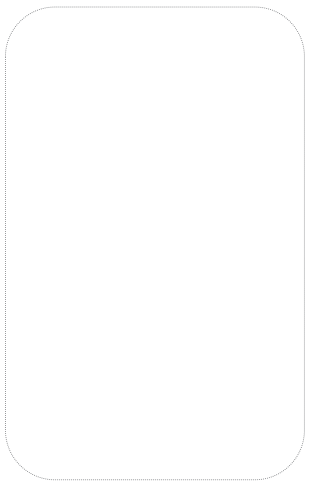
No.

( 下市)町 ( 栢原 ) 地区 (

家族点検シート (

さん )

△=男性  
○=女性







# 集落点検・戸別調査シート

## （補足説明）

- アポ取りの段階で、当日は、ご家族の中で農作業に従事している方を中心に、ご夫婦など、できるだけ男女1人ずつで来ていただくようにする（性別が偏らないように）。
- 出発前に、農地マップ（→判読しやすいように拡大）、農地情報シート、家族点検シートを準備し、目を通しておく。質問項目の「1.2」のうち、面積に関しては、農地情報シートの数値を元に事前に転記しておく。
- 農地マップと農地情報シートを2セット用意する（家族点検シートも持参するが、あくまで手持ち資料にとどめる（見せない））。
- ☆の質問項目は、1家族の中で1名のみが回答する項目。

「本日はお忙しい中、お越しいただきありがとうございます。これから、農地・農業の中心に、ご家族、日常生活と地域について、順番にお伺いしていきます。この調査は、昨年春の「寄り合い点検」の際にお聞きした内容を踏まえて、まず、「赤」（＝10年後に耕作を諦めている可能性がある）の柿畑をお持ちの農家の方を対象に、栃原の今後の農業のあり方やさまざまな課題を、地域のみなさまと一緒に具体的に考えていく目的で、聞き取りをさせていただくものです。お聞きした内容については、とくに農業に関する事柄は、地元の栃原区はもとより、このプロジェクトの関係者である県農業総合センターや役場と共有させていただく予定です。もし答えにくい（答えたくない）質問がありましたら、無理に答えていただく必要はありませんので、遠慮なく「パス」とおっしゃってください。ご不明な点は、お気軽にお尋ねください」

（→最初に、農地マップを見ていただき、確認をしてもらう）

## （質問項目）

### 0 回答者について

お名前： \_\_\_\_\_（ \_\_\_\_\_ 歳）  
 （1 男性 2 女性）



1 農地・農業について

☆1.1 経営形態

- 1 専業    2 兼業（農業中心）    3 兼業（勤め中心）    4 家庭菜園程度

→（「1 専業」と答えた人）年金受給の有無を教えてください。

- 1 受給している（いずれかに○：厚生年金・各種共済・国民年金＋農業者年金）  
2 受給していない

☆1.2 農地・山林の所有面積と現在の作物（品種） \* おおまかで良い。

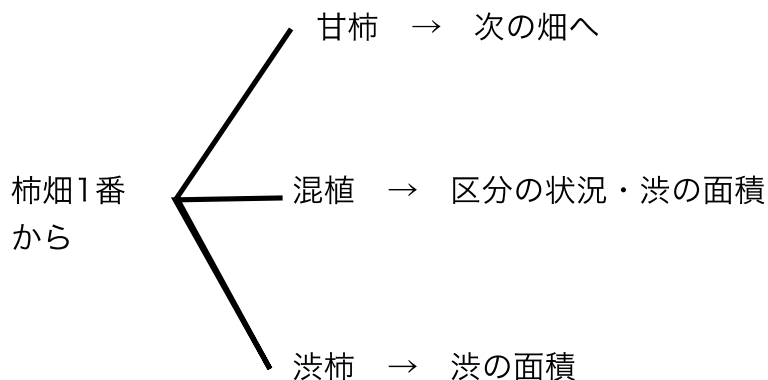
| 地目       | 概算の面積* | 作物（品種）                | 年間生産量（概算でよい）** |
|----------|--------|-----------------------|----------------|
| 果樹園（柿）   | a      | 甘柿<br>（有・無）←該当に○      | コンテナ<br>個      |
|          |        | 渋柿<br>（有・無）←該当に○      | コンテナ<br>個      |
|          |        | 百目（江戸）柿<br>（有・無）←該当に○ | コンテナ<br>個      |
|          |        | 未熟果<br>（有・無）←該当に○     | 万円             |
|          |        | 葉っぱ<br>（有・無）←該当に○     | 万円             |
| 果樹園（梅）   | a      |                       | コンテナ<br>個      |
| 果樹園（その他） | a      | 具体的に：                 | どれぐらい          |
| 田        | a      |                       |                |
| 畑        | a      | 具体的に：                 | 出荷金額           |
| 山林       | a      |                       |                |

※面積は「町・反・畝」の単位でもよいがどの単位かを確認すること。該当がない地目には「0」を記入。  
 ※※米や野菜など、自家消費がある場合は「自」と記入（出荷分がある場合は大まかな出荷額を聞く）。  
 該当がない場合は「0」を記入する。田畑は耕作の有無・放棄地も含めて聞く（空欄にメモ）。

1.3 柿畑の現状と葉っぱ栽培への転作の可能性について

☆1.3.1 柿畑の現状

- ・まず、農地マップを見せて、柿畑の位置と色の確認をしてもらう。



| 柿畑番号<br>(青や黄も対象) | 1. おもな品種<br>※以下の番号で記入する。<br>①甘柿のみ ②混植<br>③渋柿のみ | 2. 混植の割合と植え方(甘と渋がある程度分かれているか否かなど)<br>→転作の可能性は後の質問で。 | 3. <u>渋柿</u> の面積(おおまかに) |
|------------------|------------------------------------------------|-----------------------------------------------------|-------------------------|
|                  |                                                |                                                     |                         |
|                  |                                                |                                                     |                         |
|                  |                                                |                                                     |                         |
|                  |                                                |                                                     |                         |
|                  |                                                |                                                     |                         |
|                  |                                                |                                                     |                         |
|                  |                                                |                                                     |                         |



1.3.2 「赤」の畑を今後どうしたいですか？

例：売る（→誰だったらよい？）、貸す（→誰だったらよい？）、返す（借地の場合）、放置（荒地）、  
放置（森林化）、転作、後継者次第 など、なるべく具体的に聞く。

1.4.1 現在、「柿の葉」を出荷（販売）している方にお聞きします。今後、栽培を拡大するおつもりはありますか？（条件や可能性、畑の場所、ネックなど背景や理由も聞く）

- 1 ある      2 ない      3 わからない

1.4.2 現在、「柿の葉」を販売していない方にお聞きします。もし、10aで20万円ほどの売り上げになるとすれば、「柿の葉」の栽培（＝転作）に関心がありますか？（理由や背景も聞く）

- 1 ある      2 少しある      3 あまりない      4 ない

1.4.3 「ある」「少しある」場合、将来、転作を考えてみてもよい畑は何番ですか。

（畑の番号）

---

1.4.4 栃原の一部では、柿の葉の「共同集荷」がはじまっています。

関心はありますか？（その理由も）

- 1 ある      2 少しある      3 あまりない      4 ない

1.4.5 現在、「未熟果」の出荷をしている方にお聞きします。今後、出荷量を増やすつもりはありますか？（条件や可能性、畑の場所、ネックなど背景や理由も）

- 1 ある      2 ない      3 わからない

1.4.6 現在、「未熟果」の出荷をしていない方にお聞きします。「未熟果」の出荷には関心がありますか？（その理由も）      ※未熟果＝柿渋、和菓子の飾りなどに使用するもの

- 1 ある      2 少しある      3 あまりない      4 ない

※【「ある」「少しある」場合は、どの畑（畑番号）かも確認する。「青」が含まれていてもよい】

1.4.7 栃原の一部では未熟果の「共同出荷」の試みがはじまっています。すでに参加していますか？

- 1 している      2 していない

→「していない」方は、共同出荷に関心はありますか？（その理由も）

- 1 ある      2 少しある      3 あまりない      4 ない

1.4.8 上記の作物以外にも、農作業の負担が楽で収益性のある作物（例：薬草、花木）への転作に関心はありますか？（その理由も）

- 1 ある      2 少しある      3 あまりない      4 ない

※【「ある」「少しある」場合は、どの色の畑かも確認する。「青」が含まれていてもよい】



1.7 柿畑で使っている農機具の負担・不安・不便な点

☆1.7.1 負担・不安・不便を感じる農機具の種類とその内容

| 農機具<br>番号<br>(別紙1) | おもに使う人<br>(含む委託作業) | 負担・不安・不便な点：<br>①安全面（危ない目、ひやっとした経験）<br>②肉体面の負荷（主な部位）・操作性<br>③維持管理の負担（労力や金銭面など） |
|--------------------|--------------------|-------------------------------------------------------------------------------|
|                    |                    | ①<br><br>②<br><br>③                                                           |
|                    |                    | ①<br><br>②<br><br>③                                                           |
|                    |                    | ①<br><br>②<br><br>③                                                           |
|                    |                    |                                                                               |

「高齢者の営農を支える『らくらく農法』の開発」プロジェクト

|  |  |  |
|--|--|--|
|  |  |  |
|  |  |  |
|  |  |  |

1.7.2 使っている農機具で改良・改善してほしい点（こんなものがあれば、なども）



2 家族について ※デリケートな質問になるので相手の様子を見て無理に聞かない。

ここからは後継者や家族について少しお伺いします。あくまでも現時点での感触で結構です。また、答えたくない質問がありましたら、無理に答えていただく必要はありませんので、遠慮なく「パス」と言ってください。

☆2.1 子どもさんで、退職後を含めて、農業をやりそうな人はいますか？（柿に限らない）

- 1 いる      2 いない      3 わからない

→（「いる」場合）どなたですか。またその方のお住まいの場所はどのあたりですか？

→（「いない／わからない」場合）畑やお屋敷の今後について子どもさんと話をしたことがありますか？

- 1 ある      2 ない

→（ある場合）誰と？（続柄と居住地、様子も軽く聞く）

→（ない場合）話せそうな人は誰？ 理由・ネックも

2.2 緊急時や入院・通院・介護など、ご自身やご夫婦の今後について、子どもさんと話をしたことがありますか？【適宜、記録者で判断し記入してよい】

- 1 ある      2 ない

→（ある場合）誰と？（続柄と居住地、様子も軽く聞く）

→（ない場合）話せそうな人は誰？ 理由・ネックも

2.4 近隣や（ご自身の）ごきょうだいで、日常の相談事ができる人はいますか？

- 1 いる      2 いない

→（いる場合）具体的には

後継者、ご家族の質問は以上です。

### 3 日常生活とムラ（地域）について

#### 3.1 日常生活で不便な点、困っていること（つなぎ的な質問）

例：買い物、病院、学校など。自由回答

#### 3.2 栃原から出て（よそで）暮らそうと思われることはありますか？

1 ある    2 ない

→（ある場合）その理由や状況は？（自由回答）

#### 3.3 日常生活での身体の負担・痛みについて

##### 3.3.1 日常的に痛みを感じたり、動かしにくいと感じたりする部位はありますか？

（⇒別紙2に記入）

##### 3.3.2 日常的に身体の痛みをほぐすために何か工夫をしていますか？

1 している    2 していない

→（している場合は）具体的に何をしていますか？

#### 3.4 これまでの「寄り合いからだ点検」の中で、栃原の方の睡眠状態（とくに農繁期）についてもう少しお聞きした方がよさそうだということになりました。

（⇒別紙3に記入）

以上です。ありがとうございました。

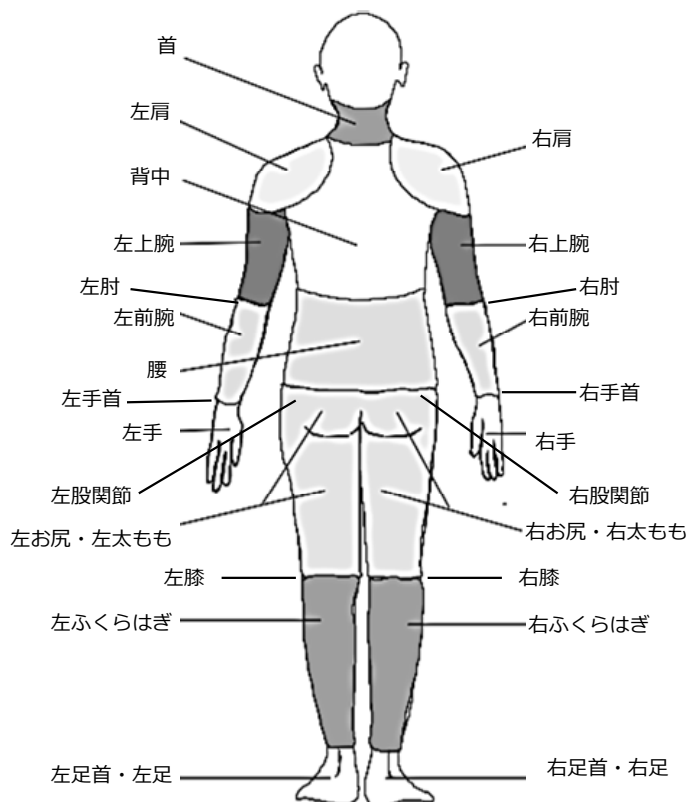
## 別紙1 (1.3) 柿畑で使用するおもな農機具

- ①脚立
- ②運搬車・クローラー（何 kg 積み？ or コンテナをいくつ載せられる？）
- ③スピードスプレアー（SS）（何リットル？ 4輪 or 6輪？ キャビンの有無？）
- ④動力噴霧器
- ⑤剪定はさみ（(a) 電動タイプ、(b) 圧搾空気タイプ）
- ⑥管理機（テラー）・耕運機
- ⑦肥料散布機
- ⑧チェンソー
- ⑨刈り払い機・モア
- ⑩ブロワ
- ⑪バーナー
- ⑫一輪車
- ⑬その他（高所作業車・ユンボなど： )

別紙2 (3.3.1) 疲労部位 ver.2

名前：

日常的に痛みを感じたり、動かしにくいと感じる部位はありますか。  
とくに「痛い」「動かしにくい」と感じる部位を、順番に3つ選んで○をつけてください（左右両方の場合はそれぞれに○）。また、どのような動きをした時にそのように感じますか。



①痛み・動かしにくさを感じる部位： \_\_\_\_\_

どんなときに？

②痛み・動かしにくさを感じる部位： \_\_\_\_\_

どんなときに？

③痛み・動かしにくさを感じる部位： \_\_\_\_\_

どんなときに？

## 別紙3 (3.4) 睡眠について

名前：

### 3.4.1 睡眠環境

どちらで寝ていますか？

- a. 布団 ・ b. ベッド

### 3.4.2 睡眠状況

①睡眠時間は何時間ですか？

時間（夜 : ~朝 : ）

②睡眠時間は足りていると思いますか？

- a. 足りている ・ b. 足りていない

③入床してから寝付きはどうですか？

- a. すぐ寝付きやすい ・ b. どちらかという寝付きやすい ・ c. 普通  
d. どちらかといえば寝付きにくい ・ e. 寝付きにくい

④普段の睡眠の深さはどの程度ですか？

- a. 深い ・ b. どちらかといえば深い ・ c. 普通  
d. どちらかといえば浅い ・ e. 浅い

⑤睡眠中、目が覚めることはありますか？

- a. 1回程度 ・ b. 1回～2回 ・ c. 2回以上 ・ d. 目が覚めない

⑥朝目が覚めた時、気分はどうですか？

- a. 良い ・ b. やや良い ・ c. 普通 ・ d. やや悪い ・ e. 悪い

⑦昼寝はしていますか？

- a. いつもする ・ b. 時々する ・ c. あまりしない ・ d. しない

⑧睡眠によって疲労はどの程度回復しますか？

- a. 完全に回復する ・ b. やや回復する ・ c. 普通  
d. あまり回復しない ・ e. 回復しない

らくらく農法 集落点検マニュアル 準備・実践編

発行日 2014年9月30日  
執筆 帯谷博明・片上敏喜・水垣源太郎・寺岡伸悟  
発行 「高齢者の営農を支える「らくらく農法」の開発」  
(代表：寺岡伸悟、独立行政法人 科学技術振興機構  
社会技術研究開発センター平成23年度プロジェクト)  
連絡先 〒630-8506 奈良市北魚屋西町  
奈良女子大学 社会連携センター  
電話 0742-20-3501